ASJA News Letter

Vol.28 2015 1月発行

アジャ・インターナショナル事務局　ASJA（Asia Japan Alumni）International
〒169-0074 新宿区北新宿3-22-7 東京日本語教育センター内
3-22-7, Kita-Shinjuku, Shinjuku-ku,Tokyo 169-0074 JAPAN
TEL: 03－5338－1285　FAX: 03－5338－1286
URL: http://www.asja.gr.jp　E-Mail: info@asja.gr.jp

日本の大学生等との交流事業

【平成26年8月29日（金）～31日（日）】

アジャ・インターナショナル初めての試みとして、日本の大学生等との交流事業を行いました。将来アセアン各国のリーダーをめざすアジャ国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本の大学生が、2泊3日の宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアン各国の将来の課題や協力について英語による意見交換を行い相互理解を深めることを目的とし、アジャ国費留学生16名のほか、アジャ修了生3名、千葉大生8名、東京外国語大生5名、上智大生11名が参加しました。千葉大学助教・辻先生を招き、アセアン経済共同体についてのレクチャーとグループ・ディスカッションのファシリテート、および講評をお願いしました。参加学生はディスカッションや交流プログラムを通して交流を深めました。

初日は、静岡県御殿場市にある国立中央青少年交流の家でオリエンテーションを行い、午後にはグループに分かれ、英語によるディスカッションが始まりました。グループ・ディスカッションでは、留学生が日本人学生をリードする姿が見られました。夜には地元の青年団や青少年交流の家関係者をお呼びして、夕食を兼ねて文化交流会を行いました。交流会は、幅広い年齢層で構成されている青年団・青少年交流の家関係者との文化交流を通して、参加大学生の視野を広げ新たな人間関係を構築する機会となり、それまで話す機会がまだなかった参加者同士の距離が縮まったようでした。

2日目には、午前中にグループ・ディスカッションを行った後、富士山樹空の森天空シアター、つづいて忍野八海の湧水池を見学しました。参加学生は富士山の四季折々で変化する姿に感動するとともに、日本人の信仰の対象ともなっている富士山とその周辺についての理解を深めるとともに、参加者同士も打ち解けたようでした。その後、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターへ移動し、夕食交流会を行いました。

3日目には、午前中に最後のグループワークを行い、午後にはそれぞれのグループごとにプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションでは、日本人学生は英語を使い、留学生は日本語を使っての発表に挑戦したいと学生から申し出があり、高いチャレンジ精神が伺われました。また、この結果、互いに言語チェック

を行ったりする等、グループのメンバー同士で互いに協力しあう機会が増えたようでした。発表では、各グループから日アセアン間の関係改善のための提言がなされ、学生の中で日アセアン関係に対する意識が高まったようでした。

発表後の質疑応答は白熱した場面も見られ、学生はアセアン諸国がよりよくなるためにはどうするべきか、日本はそのためにどのように関われるのかを真剣に考え、活発な意見交換が最後まで行われ、日本人学生にとってもアスジャ国費留学生にとっても、それぞれの国の代表として国の将来を他の国の学生と話し合う貴重な機会となりました。

学生の感想

フィリピン女子学生

Expect the unexpected. Honestly, I only expected discussing ASEAN issues with Japanese students. But no, this program exceeded my expectations! I thought language barrier would make this program unproductive. I was wrong. I thought I would be singled out because among the ASEAN participants, I have the least knowledge on Nihongo. I was wrong again. I thought discussions would be so serious and not so fun. I was 100% wrong.

ブルネイ女子学生

私たちと日本人大学生はグループになって、東南アジア諸国が日本の経済にどの様な影響があるか、その影響がいいか悪いか？、どうすれば良い影響が強化され、どうすれば悪い影響を弱めるか、東南アジア諸国の欠点も相談しました。私たちと日本人大学生はいろいろな意見を交換しました。

インドネシア男子学生

私の場合は初日の夕食の交流会が一番印象に残ったエピソードだと思います。日本の学生と食事や話し合ったりしてとても楽しい機会でした。はじめは一般の食事や飲み会だと思いましたが、地元の文化団体が参加し、日本太鼓や踊りなどを紹介してもらって、とても盛り上がった会になりました。

上智大学　学生

彼らと議論している際には常に母国の経済状況を良くしたいという強い気持ちが感じられました。母国の抱える問題について良く把握していますし、それに対する意見や解決案を各自が持っていました。私は、ASEAN諸国の抱える問題、また、日本の抱える問題について知識を蓄える必要性を感じることができたため、非常に有意義で印象深い経験だと感じました。

千葉大学　学生

東南アジアの学生の大学や高校への進学率は低いが、それでも大学まで行っている方達は自分の考えとそれを伝える英語の力を持っている。同世代の一般的な日本の大学生と比べた時、将来への危機感を感じた。自分は対等に渡り合えるようしたいと強く思った。

東京外国語大学　学生

わたしは、気軽な気持ちで参加してみたのですが、英語力・意見発信力ともに高度なレベルを求められて、打ちのめされました。しかしこの経験から、今までぼんやりしていた英語を勉強する目的を見つけることができ、また、今後の自分の行動を変えるきっかけにもなりました。大げさではありません。自分でも不思議なくらい英語や英語を使った国際交流に対する意識が変わりました。

栃木県小山ホームステイ　及び　静岡県福田ホームステイ

アスジャ国費留学生11名を対象に、栃木県小山ホームステイ（8名）および静岡県福田ホームステイ（3名）をそれぞれ5日間実施しました。ホームステイプログラムを通して、学生は日本の生活習慣や文化に対する理解を深めることができました。留学生は、ホストファミリーの方々が、家族の一員として分け隔てなく接してくださったことがとても嬉しかったようです。また、関係者からの学生の評判も高く、大好評の内に終了することができました。

とちぎけんおやま

栃木県小山ホームステイ

【平成26年8月 1日 （金）～5日（火）】

茶道体験

歓迎会にて

大正琴を教えていただきました

説明を聞く学生たち

小山国際交流会おいふぁの主催するホームステイプログラムに8名が参加しました。

初日のプログラムは茶道体験からはじまりました。留学生は慣れない正座に苦労しながらも、興味を持って取り組みました。昼食をいただいた後、地元の方の長唄の演奏を聞きました。その後大久保寿夫小山市長をはじめ来賓の方々がご臨席のもと歓迎会が行われ、参加者との良い交流の場になりました。2日目、3日目にはホストファミリーと過ごし、それぞれのホストファミリーの用意したプログラムに参加しました。4日目には折り紙教室が開かれ、さまざまな作品を折りました。留学生は1枚の紙がさまざまな形に変化することに驚き、日本人の創造力に感銘を受けたようでした。午後は地元の小中学生と交流を行いました。5日目は日産工場を見学し、留学生は日本の技術力の高さに感心していました。午後にはお別れ会が行われ、留学生それぞれが5日間のホームステイを振り返って感想を述べました。皆、ホストファミリーとの別れがとても寂しかったようで、次回の訪問を約束しました。

このホームステイを通じて日本人の生活を体験し、日本人の考え方や生活リズムについて学んだことを自国に持ち帰りたいという意見があがりました。

学生の感想

タイ女子学生

訪れた場所は全て面白くて色々なことが勉強になった。今回のホームステイプログラムに参加しないと行くことができないところへ行けてよかったと思う。たとえば、日産工場や法事などだ。それが私の大切で忘れられない思い出になった。

また、一番印象に残ったことはドライブに行った全部のところだ。元々ドライブが大好きな私はドライブができ、美しい景色そして滝や山にたくさん連れていってくれて本当にうれしかった。連れていってくれたホストファミリーは本当にありがたかった。

マレーシア男子学生

こうして家族みたいな人と観光に行ったのは久しぶりです。多分、場所は日光じゃなくても、こうやって観光に行くだけで、私は十分楽しめることができると思います。こんな暑い天気の中でも、私を日光まで連れて行ったことも、お土産を買うと聞いて私を煎餅屋へ連れて行ったのも、とても感謝しています。夜に、自分の国のことを話したのは、ホストファミリーの方にも自分の国のことをもっと知らせたいからです。こうしてお互いの国を知ることで、普段気にしていないことや、文化の違いを気づくことができると思ったからです。

ベトナム女子学生

栃木のお祭りに行きました。ヒデさんの親はレストランがあります。お祭りの時お客さんが込んでいましたので、私はちょっと手伝いしました。これは良い経験だと思います。よさこいのおどりを見ながら色々な料理を食べました。唐揚げという料理しか覚えられませんでした。夜の9時に家に帰りました。ちょっと疲れたが楽しかったです。

しずおかけんふくで

静岡県福田ホームステイ

【平成26年8月7日（木）～11日（月）】

静岡県磐田市在住のボランティアの方々の協力を得て、ホームステイプログラムを実施し、アスジャ国費留学生3名が参加しました。これはアスジャ国費留学生のために作られたプログラムで、体験活動のある日は終始ボランティアの方々に付き添っていただきながら行われました。また、このプログラムは一部、地元紙の中日新聞と静岡新聞に記事として取り上げられました。

初日は、明治時代に建てられた現存する日本最古の木造擬洋風小学校校舎である旧見付学校を見学し、施設の方からの説明を聞きながら明治時代から実際に使われていた教材や教具を手にとって、自国の学校と比較しながら日本の教育制度の歴史について理解を深めました。その後、飯田正人磐田市教育長への表敬訪問を行いました。飯田教育長は英語でご挨拶くださり、また、留学生一人ひとりに質問をされ、とても温かく迎え入れてくださいました。その後、ホストファミリーと一緒にそれぞれの家へ向かいました。2日目には、大塚製薬、ヤマハ発動機株式会社本社、福田港、航空自衛隊エアパーク、縄文時代の遺跡が残る蜆塚遺跡を見学し、日本の技術の発展の歴史や現在について興味深く学んでいました。週末をホストファミリーと過ごし、最終日には伝統舞踊の銭太鼓踊り体験活動を行いました。留学生は進んで真似をして踊り、日本の芸能の楽しさを味わいました。その後、埋蔵文化財センターを訪れ、磐田市の歴史や地域の発展について学びました。

留学生はホストファミリーをはじめ磐田市の地域の方々と交流する機会を多く頂き、さらに様々な施設を訪問して日本と磐田市についての理解を深めることができました。

飯田教育長への表敬訪問

大塚製薬

自衛隊エアパーク

学生の感想

ラオス男子学生

日本にいても、なかなか食べる機会のない家庭料理を食べられて、これが日本の味だとわかりました。その他、ホストファミリーと交流している間、お父さんは親切で色々な所に連れて行ってくれました。お母さんは家庭料理を作るのが上手で、いつも面白い話をしてくれました。やはり、一番印象的なのが子供たちといる瞬間です。私は弟も妹もいなくて、今回なっちゃんアイ君と一緒にいられて、すごく楽しく過ごしました。最後の日には会えなくて、ちょっと残念でしたが、また近いうちに会いに行きます。

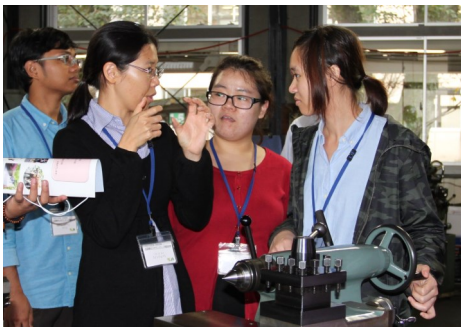
タイ男子学生

私は、大塚製薬社の訪問が好きだった。この会社の製品の製造過程を学ぶことは私に広い視野を提供してくれた。それは貴重な研修旅行だった。

また、私たちは航空自衛隊のスーツを着る機会があったし、写真を撮った日本の航空自衛隊エアパーク訪問を楽しんだ。航空自衛隊エアパークは観光客の注目を集めるための素晴らしい場所だと思う。

那須甲子ボランティア

【平成26年9月2日（火）～５日（金）】



福島県立白河実業高等学校にて

火起こし体験

塔のへつり

今年度はアスジャ国費留学生8名が、福島県西白河郡にある国立那須甲子青少年自然の家の「外国青年のボランティア実践研修」に参加しました。同施設で実際に働くボランティア体験を通じて、日本の青少年教育施設の役割や社会教育の考え方について学び、日本の小学生との交流も深めることができました。

初日には新山雄次所長に「日本における青少年教育施設の果たす役割」と題する講義をしていただき、学生は施設の取り組みを自国の青少年教育と比較しながら高い関心を見せていました。野外炊飯点検では、小学生が使った食器や調理器具を正しく片付けられているかのチェックをしました。夜には夕食を兼ねて情報交換会を行い、青少年自然の家の方々と自国の文化や教育について話し合いました。

2日目に訪問した小中併設校である西郷村立川谷小・中学校では、自国の学校の様子と比較し、日本の学校教育について学びました。福島県文化財センター・まほろんの見学では、古代から現在までの日本人の生活がどのように変化したのかを学び、火起こし体験で火を起こす大変さを実感し、文明の発展に改めて感謝しました。その後、専門科を設置する福島県立白河実業高等学校を訪問しました。留学生は普通高校と異なり、少人数制の専門的な授業を行う様子を見て、驚いていました。スコアオリエンテーリング、白河だるまの絵付けといったアクティビティも用意していただき、楽しみながら日本の教育について知ることができました。

3日目には会津まで移動し、塔のへつりと大内宿の見学、そば打ち体験を行い、福島の自然の豊かさと文化を体験しました。その後、青少年自然の家に戻り小学生のアクティビティの補助をしながら、交流をすることができました。また、キャンプファイヤーの準備から片付けまで参加し、自国ではキャンプファイヤーはなく、初めての体験に感動したという声もありました。

毎朝、チェックアウトする小学校の清掃点検を行い、最終日には施設の清掃を行いましたが、日本の子どもたちが責任を持って熱心に掃除や整理・整頓を行っている姿を見て、大変感心し、自分たちも見習いたいと感じたようでした。

学生の感想

インドネシア女子学生

那須甲子青年自然の家のスタッフになって、3日間ボランティアしました。スタッフとして毎朝毎晩つどいに参加して、今日の活動や国のことを参加者の皆さんにお伝えすること、それから、チェックアウトする部屋のチェックをすること、お掃除や小学生達と協力することをしました。

外国青年のボランティア実践研修を参加して、いろんなことを学びました。日本の小学校、中学校や高等学校に訪問すること、小学生と一緒に活動をすること、そして福島の美しい所に行って、とてもいい経験だと思っています。

マレーシア男子学生

所長のおかげで、初めて温泉を体験しました。日本人の風俗文化としての温泉に対して、違和感を感じる外国人がいるはずです。私の場合は共同浴場を体験しておくと、少し日本人の生活習慣が理解できるし、多忙な一日でたまるストレスを温泉が解消するため物凄くいいと共感しました。

カンボジア女子学生

このセンターは 素晴らしいです。特に 2011年 3 月の東日本大震災の 時、センターのみなさんは 地震の被災者を助けました。 ビデオを見て、良かったと思いました。悲しいですけど、皆さんと一緒にいる時間勉強して、働いて、元気になりました。同じようなセンターを、カンボジアで作りたいです。早寝、早起き、ご飯を食べる という こと は とても いい 習慣です。

インドネシア男子学生

Soba noodles are made of buckwheat flour. It is the 1st time for me to make soba by my self. I think making soba is not too difficult, but there are a lot of steps that we need to do one by one to make a good soba. This activity is my favorite activity in Nasukashi Volunteer Program.

こくさいりかいきょういく

国際理解教育

【平成26年9月19日（金）】

今年度の国際理解教育は、全2回の開催を予定しており、第1回目の訪問として9月19日（金）に、新宿区立鶴巻小学校6年生17名と4時限と給食の時間にかけて交流を行いました。

まず、アスジャ国費留学生が自己紹介、国旗、自国語の挨拶の紹介を行い、つづいて、小学生から合唱と和太鼓の演奏披露があり、留学生たちは息の合った小学生の発表に驚き、感心していました。その後、留学生がドラえもんをそれぞれの自国語で歌いました。

給食の時間になり、留学生は小学生と一緒に昼食を食べながら自国の文化について紹介したり小学校生活について質問したりしながらお互いに理解を深めました。留学生たちにとって、日本の若い世代と交流する貴重な機会となりました。

学生の感想

ミャンマー男子学生

I found out that Japanese students are good at not only education but also music and sports. Every school has good library, playground and other facilities. We learned how to play Japanese musical instruments from the students. I like Japanese music and musical instruments. Some musical instruments are very similar to Myanmar’s ones (e.g. drums).

シンガポール女子学生

The most memorable moment was when I teasingly asked a student, “what would you do if you dislike the food in the school lunch?” To which she replied, looking bewildered, “of course I would still finish food definitely.” Her answer brings to mind the qualities of endurance and patience, values so ubiquitous of the Japanese culture, an invaluable lesson in the society of today.

アセアン文化祭典

【平成26年9月27日（土）】

＜事業の概要＞

アスジャ・インターナショナルの学生自主事業である「アセアン文化祭典」を9月27日（土）に、東京・代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターの国際会議室にて開催しました。本事業は、学生が自ら企画、実施し、平成15年より行われています。これまでは2年に1度の開催でしたが、平成26年度より1年に1度の開催となりました。

＜準備＞

各国ごとのチームリーダーと、1名の実行委員長（平成24年4月期アスジャ国費留学生（フィリピン））と2名の副実行委員長（平成24年度4月期アスジャ国費留学生（ミャンマー）、平成25年度4月期アスジャ国費留学生（マレーシア））を6月に学生による投票で決めて以来、約3か月かけて準備をしました。この事業には学生全員が参加するため、全ての学生に対して役割が与えられました。9月14日には、同会場で本番さながらのリハーサルを行い、当日の流れや準備に必要なものを確認しました。

＜アセアン文化祭典当日＞

アセアン文化祭典は、まずアスジャ・インターナショナルの佐藤次郎事務総長より開会の辞を述べた後、前半5か国、後半5か国の発表に移りました。パワーポイントでのプレゼン発表、ダンス、歌、ビデオ上映など、来場者に飽きがこないような多様な方法を用いて、東南アジアの幅広い文化を紹介することができました。各国の発表後には学生たちが民族衣装を身にまとったファッション・ショーを行い、会場の雰囲気を盛り上げることができました。フィナーレでは、裏方を含めた学生全員が前に出て、歌（小さな恋のうた）を披露しました。

ステージ右側にはチラシの主役となったアセアン文化祭典のマスコットを飾りました。マスコットは、東南アジアの国旗がデザインされた風船を持っており、これが参加者の注目を引きました。ステージ上部には各国の国旗が飾られました。会場後方には、東南アジア10カ国の展示ブースが設けられ、学生が大使館や政府観光局から取り寄せたパンフレットやポストカード、自ら持ち寄った民族衣装や雑貨などを陳列し、休憩時間には学生と参加者との会話のきっかけとなり、大いに盛り上がりました。

全ての発表が終了した後の交流会は、発表場所である国際会議室の隣のレセプションホールで行われました。交流会はアスジャ･インターナショナルの田島高志日本国理事の乾杯の挨拶で始まり、ひきつづき外務省

リーダー会議と各国発表練習

9月14日に行われたリハーサル

大臣官房浦林紳二人物交流室長にご挨拶していただきました。学生がこの日のために準備した母国のお菓子や飲み物を用意し、学生と参加者の間で活発な意見交換が行われました。参加者たちは、東南アジアの珍しいお菓子や飲み物に触れることができ、その国への興味を持つ契機となったようでした。また、発表の後での交流会は話が弾み、お互いの国を理解し、コミュニケーションの輪を広げる機会となりました。

＜総括＞

9月27日当日　本番前の準備

平成26年8月に代々木公園で発生したデング熱の影響で、目標の来場人数を達成できるかの懸念がありました。しかし、学生が自ら考えたマスコットキャラクターを使用して作成したチラシやポスターを関係各所に配布し、ホームページやメーリングリスト、また、FacebookなどのSNSツールを通じてインターネット上でも事前に積極的にPRを行ったこともあり、当日は86名もの来場者が現れ、会場は大いに賑わいました。外務省大臣官房浦林紳二人物交流室長をはじめ、独立行政法人日本学生支援機構関口雅之東京日本語教育センター長、ASEAN各国の大使館の方々もいらっしゃいました。また、8月に行われた「日本の大学生等との交流事業」に参加した日本人大学生をはじめ、東南アジアに興味を持ち国際交流を深めたいという日本人の学生や一般社会人が多数いました。

来場者からのアンケートでは、好意的な意見がほとんどを占め、全ての発表が日本語で行われたことに驚き、何度も練習した様子をうかがい知ることができたようで、彼らの一生懸命さに感銘を受けたという意見もありました。また、学生達が身につけていた華やかな衣装や、学生達が「綺麗な」日本語で「丁寧に」話をしていた事に好意的なコメントが見受けられました。

この事業を通じて、東南アジア10か国の留学生が一同に揃い、自分たちの国についての発表、展示物、広報物、お菓子や飲み物を通して東南アジアの幅広い文化を紹介することができ、来場者の東南アジアの国々に対する一層の理解を深めることができました。また、学生が自ら計画して、規模の大きいアセアン文化祭典を成功に結びつけたことに対して、学生たちは大変自信がついたようです。また、事業を進める過程で、文化の違いを目の当たりにしながらも問題が発生した場合どうしたら解決できるかを考え、コミュニケーション能力やチームワーク、スケジューリング、仕事への責任感などについても学ぶことができたようでした。さらに、アスジャ国費留学生同士の交流を深めることができる貴重な機会でした。

9月27日　アセアン文化祭典　本番

学生の感想

フィリピン男子学生

I learned that not all people can think and act the way you think and that academic achievement is not a determinant of one's capability. ASJA students are composed mostly of graduate students and scholars of MEXT. I thought that the event preparation will have no problem given the composition of the members.

マレーシア女子学生

東南アジアの様々な文化について、プレゼンテーションだけでなく、ダンスや歌など、日本文化と異なっていることを見せたと思います。それぞれの美しい民族衣装、日本であまり味わうことのない食べ物、展示物などで自分の国の良さを伝えたのではないかと思います。直接に東南アジアに興味を持っているお客さんとコミュニケーションを取ることでも、優しさを伝えたでしょう。

ミャンマー男子学生

The first thing I learned through this event is about the culture of ASEAN countries. Even though we are neighbours it had never been this easy for me to learn about all these countries and the nature of their people in the same place. Another important thing I learned is how difficult and painstaking it can be to arrange and manage such an event. We have gone through a lot of compromises and negotiations as well as discussions and team work to make this happen.

ブルネイ男子学生

そもそもブルネイは東南アジアの国の中で一番知られていない国かもしれません。日本からの観光客が少ないため、多くの日本人に、ブルネイはかなり神秘的なイメージを与えています。アセアン文化祭典で１０分ほどの短い紹介を通じてブルネイの文化、飲食、人々の生活などを日本の皆様に伝えればと思いました。さらに日本とブルネイの相互理解を進め、両方の交流を促進することを望みました。

ブルネイはどういう国なのかと聞かれたら、多くのお客さんは石油と天然ガスしかブルネイのことを知りませんでした。プレゼンテーションをした後に行った交流会で皆さんと話すと、皆さんが「ブルネイってこんな一面もあるなんて知りませんでした」、「来てよかった」と言いました。こんな言葉を聞いたことが僕にとってアセアン文化祭典での一番うれしかったことです。

タイ女子学生

国ごとの異なる文化、経済の成長性、観光地、そして国民性などを伝えられました。自分の母国であるタイの情報について、お客さんのほうが自分より詳しかったこともあって、自分にとっても勉強になりました。お互いに日本と東南アジアに関することを交流できる良い機会でした。今後も是非このようなイベントまたは交流会を続けてほしいと伝えられました。

シンガポール女子学生

私の発表のテーマは「シンガポールの失われる文化」だから、いろいろなことについて、多分先輩たちがまだ発表していなかったから、お客様は違うシンガポールのことが分かりました。それで、お客様に、シンガポールの失われる文化を知ってほしいから、このテーマを選んで、良かったです。シンガポールの昔の漫画やシングリッシュなどのシンガポールの特別な文化をよく紹介しました。

いろいろな日本人はシンガポールの昔の漫画とシングリッシュによる本を長い時間、立って読んで、嬉しかったです。それで、たくさんのお客さんはシンガポールの観光の本を持ち帰りました。カチャン・プテを食べたお客さんはいいフィードバック（例えば、どんなナッツが美味しい、コーンカップで食べるのは面白い）を教えてくれて、嬉しかったです。

ラオス男子学生

今回のファッションショーが一番印象に残りました。大変面白く、ストーリー性もあって、成功したとおもいます。そして、みんなで歌をうたうのも良かったではないかと思っております。またさらに強化したいことは、プレゼンテーションです。ストーリー性や映像を取り組んで、もっと面白い話にしたいと思っております。

ミャンマー女子学生

All the students tried their best to present about their own country through the power point presentation, singing traditional songs or interesting dancing.

In my opinion, the audience could have a chance to know the charms of cultural diversity in ASEAN countries. Moreover, geographical location, important landmarks and tradition had been introduced through this event.

More importantly, during the different countries' booths, all the visitors could have a chance to talk to the students in person and could experience the friendliness of South East Asian people.

ベトナム男子学生

The management and the cooperation between leaders were going really well. We worked it out in just 2 face to face meetings and some online meetings. We constantly improved the whole program by continuous discussion. I think that was all thanks to the three leaders we voted up. As for the next time, the voting should really be done again.

おつかれさまでした！

カンボジア女子学生

Through this event, Cambodian team had a dancer performed blessing dance. This dance expressed a part of identity of Cambodian lady which shown through the gentleness in dance's movement, and dressing style. In addition, the history and definition behind the dance was also explained in Japanese. Cambodia as one of the ASEAN countries was saying to the audience that we wished them with good luck and prosperity.

にほんせいかつたいけんけんしゅうじぜんべんきょうかい

日本生活体験研修事前勉強会

へいせい　ねん　がつついたち　にち

【平成26年11月 1日 （日）】

12月4日～7日にかけて京都で行われた研修旅行「日本生活体験研修（京都）」に向けて、東京日本語教育センターにて事前勉強会を開きました。日本生活体験研修で訪れる予定の場所についての資料を読み、アスジャ・スタッフの説明を受けながら、訪問先の歴史や意義について学びました。留学生たちは午前中から集まり、勉強会は夜遅くまで続きました。この勉強会で学んだことを足がかりにして、留学生たちはグループごとに1つのテーマを決め、調査をし、報告書を書きます。この勉強会をきっかけにして、あまり関心のなかったテーマにも興味が持て、日本生活体験研修当日への期待が高まったという意見が出ました。

にほんぶんかたいけんかつどう　さどう

日本文化体験活動：茶道

へいせい　ねん　がつふつか　にち

【平成26年11月2日（日）】

日本生活体験研修の事前勉強会の翌日、平成26年度の日本文化体験活動が行われました。前年度同様、遠方在住の国費留学生も参加できるよう、日本生活体験研修の事前勉強会と同じ週末になるよう計画しました。表千家の講師をお招きし、格式高い場所で茶道を体験する事により、最もフォーマルな環境での茶席が体験できました。

午前中は、東京・上野にある東京国立博物館内の茶室・応挙館において、資料をもとに、茶道の歴史や道具の意味についての講義が行われました。学生たちからは、「今まで知らなかった茶道についての理解が深まってよかった」という声が聞かれ、講義の内容はおおむね好評でした。その後、博物館内の日本美術のコーナーを見学し、実際の道具を見て、学生たちは講義で学んだ内容を確認し、興味深く館内を見学していました。応挙館へ戻って昼食をとった後、講師の先生の解説を受けながら茶道体験を行いました。特に、入室の所作を一人ひとり行い、学生たちはおごそかな気持ちで茶会に臨みました。道具拝見の際にお辞儀をすることに驚いたという学生が多くいました。講師の先生は、由緒ある茶器や掛け軸など、普段あまり目にする機会のない名品を多数お持込みくださいました。またそれぞれについての丁寧な説明を伺う事が出来ました。ベトナム由来の茶碗やタイ製の香入れの使用など、講師の先生がASEAN諸国からの留学生に対するお茶席という場に工夫をこらしてくださった準備について、数々の説明を受けました。茶道のお点前のみに限られた理解ではなく、茶室、時候、庭園、茶器を含む総合的な茶席の有り様を五感を通じて体験する良い機会となりました。

学生の感想

インドネシア男子学生

From this activity, it made me realized that the whole process is not about drinking tea, but is about aesthetics, preparing a bowl of tea from one's heart. The host of the ceremony always considers the guests with every movement and gesture. The way how to serve tea to the guest, impressed me.

ラオス女子学生

私が思ったとおり日本の文化は本当に丁寧に行って、特に茶道体験から見るとその活動することにいろいろ準備しないといけないことがあって本当に大変なことです。茶道はお茶を飲むだけでなく、和菓子もあってその和菓子はただのお菓子と違って、日本の四季に関係があることもさすが日本だなあと思います。それに今回そのような立派なところで茶道を体験でき、本当に感動しました。

フィリピン女子学生

When the Sensei in charge of the tea ceremony was explaining each part's significance, I was impressed by how special the tea ceremony was. I was overwhelmed. From the poster above the altar to the wagashi served to us, everything has its own significance for the ceremony. I was impressed that they even used a ceramic from Vietnam and a paper cloth and ceramic too from Thailand to pay tribute that their guests were mostly from Asia. This truly reflects the attention and hospitality given by the Japanese to their guests, one of the many things I absolutely admire about their culture.

平成26年度10月期アスジャ国費留学生オリエンテーション

【平成26年11月2日（日）】

日本文化体験活動が行われた日の夕方、10月に来日したアスジャ国費留学生2名のための平成26年度10月期アスジャ国費留学生オリエンテーションが行われました。ここでは、佐藤事務総長が、アスジャの説明、元日本留学生協会とアスジャの関係、国費留学生の参加事業についての説明を行いました。続いて、国費留学生から研究内容などを含めた自己紹介がありました。２名のアスジャ国費留学生は共に日本文化を学びたい気持ちが大変強く、アスジャの交流事業への参加を楽しみにしているようです。

速報：日本生活体験研修

【平成26年12月4日（木）～7日（日）】

今年度の日本生活体験研修は、紅葉の美しい京都で3泊4日の日程で行われました。アスジャ国費留学生22名と、引率として佐藤事務総長、岩本主幹、スタッフ3名が参加しました。今回の研修の行き先として京都が選ばれたのは、古代から近代までの日本の歴史の主要舞台であったからです。8世紀末には京都に平安京がおかれ、1000年以上もの間、天皇制の中心として日本の首都でした。京都には、各時代の歴史的建造物や史跡が点在しており、国宝や重要文化財など貴重な文化財も数多く、特に下鴨神社、清水寺、金閣寺、西本願寺、二条城は世界文化遺産にも登録されています。京都には町家の伝統的な町並みも残されており、西陣織などの伝統工芸産業も盛んです。このように、京都は、日本の歴史や文化を理解する上で不可欠な研修先です。

初日には雨が降り、気温が摂氏0度まで下がるなど全日程を通して寒い中での研修となりましたが、全行程を無事に終えることができました。京都が日本の歴史で果たしてきた重要な役割を、留学生たちは実際に現地を訪れて見聞したことにより一層理解することができたと思われます。研修後に、留学生たちはグループレポートと、研修で学んだことについてまとめた個人報告書を提出します。

具体的な研修内容と学生からのレポートは次号（29号）にて取り上げます。どうぞお楽しみに！

アスジャ事務局だより

◇◇　今後のスケジュール　◇◇

〈2月〉 国際理解教育（第2回）

〈3月〉 研修合宿　於：埼玉県国立女性教育会館

日本文化体験活動（歌舞伎）

アスジャ理事会及び修了式・活動報告会

◇◇編集後記◇◇

アスジャ･インターナショナル事務局は、今年4月以降人数が増え、現在では事務総長、主幹、スタッフ4名の6名体制で運営されています。6名の経歴は様々ですが、「アスジャ･インターナショナルをより良くしていきたい！」という気持ちは皆同じ。
これからも事務局一丸となってアスジャ事業を支えてまいります。

次号（29号）は2015年4月に刊行予定です。ASJAニュースレターに関するご意見、ご要望、など皆様からのお声を、ASJAニュースレター編集担当・有馬までメール（info@asja.gr.jp）にてお聞かせください。